

命を守る自助の取組

～家具類の転倒・落下・移動防止対策をしよう～

概ね10階以上にお住まいの方は、従来の転倒・落下防止対策に加え移動防止対策も行うことが大切です

① 安全空間の確保 (家具の配置などを工夫する)

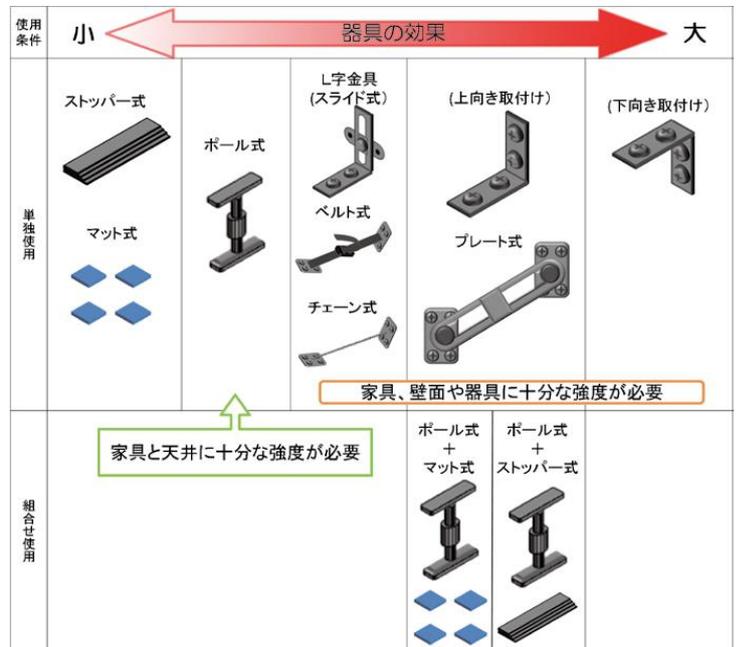
《ポイント》

- ・ 避難の妨げとなる場所 (出入口付近、廊下、階段等) には家具を置かない。
- ・ 寝室や幼児・高齢者がいる部屋にはなるべく家具を置かない。
- ・ 地震時の出火を防ぐため、火気の周辺に家具を置かない。
- ・ 家具の上にガラス製品等落下すると危険なものは置かない。
- ・ 重いものを下の方に収納し、倒れにくくする。

② 家具の固定

《ポイント》

- ・ 家具をL型金具などで壁に直接ネジ固定する方法が最も効果が高い。
- ・ 家具の上部と天井の間に、ポール式やすき間家具などで家具を固定する場合は、ストッパー式や粘着マット式を併用すると効果が高くなる。
- ・ ポール式の場合は、天井に下からの突き上げに耐える強度が必要で、強度がない場合は、当て板等で補強する必要がある。
- ・ マット式やストッパー式の器具の単独使用は効果が小さくなります。家具の重量、奥行きなどの条件によつての違いはあるが、一般に大きな家具には適していません。



【転倒防止器具の効果】→

《特に重要なポイント》

- (1) 寝ている場所 (2) よくいる場所 (ダイニング、キッチン、子供部屋等)
- (3) 避難経路は、家具や家電製品が倒れてこないようにする

家具が凶器に!!

阪神・淡路大震災では、建物自体は大丈夫でも、多くの家で家具が転倒、落下し、家具の下敷きになったり、割れたガラスなどでケガをしたりする被害が多数でした。

家具の転倒、落下によりケガをするだけでなく、倒れた家具により、部屋の出入り口や廊下がふさがれ避難することが困難になります。日ごろから家具の固定をしたり、配置を考えたりして地震に備えましょう。

家具別の固定のしかた

たんす・棚	L字金具や支え棒などで固定しましょう。2段重ねのものは、上段と下段のつなぎ目を金具で連結して、両開きタイプの場合は扉が開かないように止め金具をつけましょう。ガラス面には飛散防止フィルムをはりましょう。
本棚	重い本は下に、軽い本を上にするようにしましょう。すきまがあれば、ブックエンドなどを利用してすきまをなくし、本がすべり落ちないようにバンドやひもをかけておきましょう。
テレビ	なるべく家具の上に置かず（やむをえない場合は家具としっかり固定する）、できるだけ低い位置に固定しましょう。また、テレビの上にはもの（花瓶など）を置かないようにしましょう。
額縁	チェーンや金具でしっかり固定しましょう。ガラス面には飛散防止フィルムをはるとより安全です。
窓	ガラス面には飛散防止フィルムをはりましょう。就寝時はカーテンをひいておきましょう。
照明器具	つり下げ式の照明器具は、チェーンと金具を使って数箇所止めましょう。
ピアノ	本体にナイロンロープなどを巻き付け、太めの柱に取り付けた金具に連結し、しっかり固定しましょう。脚（キャスターなど）には専用のすべり止め器具を付けましょう。
冷蔵庫	針金などを使用して、壁や柱にしっかり固定しましょう。一般に市販されている転倒防止用の専用ベルトを使うのもよいでしょう。

(津島市ホームページ参照)